

2017 年度 小委員会活動成果報告

(2017 年 1 月 30 日作成)

小委員会名	環境心理小委員会	主 査 名：榎 究 就任年月：2015 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境心理生理運営委員会)	委員長名：岩田利枝 主 査 名：西名大作
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～ 2019 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>人間・環境系を総合的に扱う環境心理研究を発展させるための組織的取り組みを行う。具体的には、前身の小委員会で開催されてきた「環境心理チュートリアル」を継続的に開催すると共に、現在までの研究状況を整理し、今後取り組むべき課題および研究発展のための方策を検討して、実施する。</p> <p>初年度～4 年度：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 環境心理研究に資する情報の提供 (チュートリアル開催等) 2) 交流活動の推進(公開研究会等) 3) 研究状況の整理 (若手研究者の研究紹介等) 4) 活動体制の検討 (環境心理研究発展の方向性の検討等) 	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無	
	<p>主査：榎究 (実践女子大学)、幹事：小島隆矢 (早稲田大学)</p> <p>委員：上野佳奈子 (明治大学)、大石洋之 (ジェイアール東日本建築設計事務所)、古賀誉章 (宇都宮大学)、佐野奈緒子 (東京電機大学)、高橋浩伸 (熊本県立大学)、高橋正樹 (文化学園大学)、辻村壮平 (茨城大学)、長澤夏子 (お茶の水女子大学)、西原直枝 (聖心女子大学)、宗方淳 (千葉大学)、渡辺秀俊 (文化学園大学)、小崎美希 (お茶の水女子大学)、大野隆造 (東京工業大学)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>チュートリアル運営 WG：環境心理生理チュートリアルの企画・運営</p> <p>環境心理教育検討 WG：環境心理教育の事例を収集し、小・中・高等学校から大学、設計者などに有用な環境心理学的知見や教育方法の検討</p> <p>人類学的アプローチ WG：自然人類学および文化人類学の両面から人間-環境系の基本的な理解に導く理論的枠組みと事例の収集とその有効性についての討議</p>	
2017 年度予算	120,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：無

項 目	自己評価
委員会開催数	環境心理小委員会：2 回 (年度内開催予定を含む) (チュートリアル運営 WG：1 回、環境心理教育検討 WG：3 回、人類学的アプローチ WG：5 回)
刊行物	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等)	第 17 回環境心理生理チュートリアル「行動観察調査における作法と技法 ～ 人の行動から心理を読み解く～」 参加者数 83 名
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>十分な成果が得られている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 環境心理研究に資する情報の提供 (チュートリアル開催等) 第 17 回環境心理生理チュートリアルの開催 (2017 年 9 月 19 日) 2) 交流活動の推進(公開研究会等) WG 活動におけるオブザーバー参加 3) 研究状況の整理 (若手研究者の研究紹介等) 環境心理教育検討 WG における、これまでの研究成果の教育への還元に関する状況の整理 4) 活動体制の検討 (環境心理研究発展の方向性の検討等) 人類学的アプローチ WG における、関連する概念・研究方法の整理
委員会活動の問題点・課題	2) の交流活動の推進については、公開研究会等を開催するまでには至らなかった。次年度の課題としたい。

2017 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A	B	C	D
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>「目標の達成度」においても記述したが、下記の活動を実施し、十分な成果が得られたため、総合評価は A と判断した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第 17 回環境心理生理チュートリアル開催 (2017 年 9 月 19 日) 2. WG 活動におけるオブザーバー参加 3. 環境心理教育検討 WG における、これまでの研究成果の教育への還元に関する状況の整理 4. 人類学的アプローチ WG における、関連する概念・研究方法の整理 			

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。